



平成27年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年11月6日

上場取引所 東

上場会社名 アルコニックス株式会社

コード番号 3036 URL <http://www.alconix.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 正木 英逸

問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員財務本部長 (氏名) 宮崎 泰

TEL 03-3596-7400

四半期報告書提出予定日 平成26年11月10日

配当支払開始予定日

平成26年11月28日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家、アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第2四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第2四半期	97,000	9.1	2,404	28.1	3,108	72.8	2,290	27.2
26年3月期第2四半期	88,939	0.5	1,877	9.1	1,799	△10.7	1,800	77.3

(注)包括利益 27年3月期第2四半期 1,921百万円 (△51.5%) 26年3月期第2四半期 3,963百万円 (322.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第2四半期	179.96	179.16
26年3月期第2四半期	141.60	141.17

(注)当社は平成26年8月1日付で、当社普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。そのため当該株式分割が前連結会計年度の期首に行われたと仮定して1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第2四半期	87,959	23,093	25.6
26年3月期	85,664	21,368	24.3

(参考)自己資本 27年3月期第2四半期 22,542百万円 26年3月期 20,833百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	30.00	—	35.00	65.00
27年3月期	—	18.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	18.00	36.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

当社は平成26年8月1日付で、当社普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。そのため平成27年3月期(予想)の年間配当につきましては当該株式分割を考慮しております。また株式分割を考慮しない場合の平成27年3月期(予想)の年間配当は1株当たり72円に相当いたします。

3. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	201,000	9.4	4,120	18.2	4,950	37.5	3,500	11.3	274.01

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

・平成27年3月期(予想)の1株当たり当期純利益につきましては、株式分割を考慮した額を記載しております。

・業績の修正については、本日(平成26年11月6日)公表の「平成27年3月期第2四半期連結累計期間の業績予想との差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」を参照して下さい。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、[添付資料]4ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

27年3月期2Q	12,773,600 株	26年3月期	12,717,600 株
----------	--------------	--------	--------------

② 期末自己株式数

27年3月期2Q	370 株	26年3月期	370 株
----------	-------	--------	-------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

27年3月期2Q	12,727,912 株	26年3月期2Q	12,711,968 株
----------	--------------	----------	--------------

当社は平成26年8月1日付で、当社普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。そのため上記の株式数につきましては、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算出しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、[添付資料]4ページ「2. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、米国経済が民間需要を中心に回復を続ける一方、欧州経済は低調に推移、また中国経済も減速傾向がみられました。

我が国経済は、消費税増税の駆け込み需要の反動が尾を引き、また夏場の天候不順や輸出の低迷により緩やかな回復にとどまりました。

当社グループを取り巻く非鉄金属業界においてはスマートフォン・タブレット端末向け需要が引続き拡大を続ける一方、自動車向けも旺盛な海外での需要増加を背景に堅調に推移いたしました。

このような経済環境のもと、当社グループの売上面においては、電子材料分野のスマートフォン・タブレット端末関連部材、環境関連部材、太陽光発電関連部材のほか、アルミスクラップ、金属珪素、タングステン・モリブデン等のレアメタル、及び国内連結子会社が製造する半導体製造装置用部品等が増加いたしました。また、レアアースについては電池、磁石、触媒用途での自動車向け軽希土類の取扱いが増加いたしました。単価の下落により売上高は前年同期比横ばいにとどまりました。一方、空調機器向け銅管、及び電池材料用ニッケル粉末等の取扱いが減少いたしました。

利益面では、グループ全体の売上増加に伴う収益増に加え、第1四半期連結累計期間にケイ・マック株式会社を持分法適用関連会社とし、負ののれん発生益を含む持分法による投資利益を営業外収益に計上したことにより経常利益は大幅な増加となりました。これにより四半期純利益についても大幅な増益となりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における連結経営成績は、売上高97,000百万円（前年同期比9.1%増加）、営業利益2,404百万円（同28.1%増加）、経常利益3,108百万円（同72.8%増加）、四半期純利益2,290百万円（同27.2%増加）となりました。

当第2四半期連結累計期間におけるセグメントの業績は次のとおりであります。また、各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高を含んでおります。

・軽金属・銅製品事業

消費税増税の反動による国内空調関係の在庫調整や資材高騰と職人不足による住宅建材関係の停滞が続きましたが、それ以外の自動車、航空機、及び半導体製造設備等の取引は堅調に推移いたしました。また、国内製造子会社の業績が好調を維持いたしました。なお、本年4月に持分法適用関連会社となったケイ・マック株式会社の負ののれん発生益を含む持分法による投資利益を営業外収益に計上したことにより、セグメント利益は大幅な増加となりました。

この結果、当セグメントにおける売上高は37,123百万円（前年同期比7.4%増加）、セグメント利益は1,915百万円（同152.5%増加）となりました。

・電子・機能材事業

堅調な成長を続けるスマートフォン・タブレット端末関連部材は新モデルの市場投入効果もあり順調に推移した他、環境関連部材及び太陽光発電関連部材も好調を維持しました。また、チタン・ニッケル製品の輸出取引は為替効果、及び中国電力プロジェクトの再始動により復調傾向となりました。

一方、レアメタル・レアアースの分野においてはタングステン、モリブデンの他、電池、磁石、触媒用途でのレアアースの自動車向け需要が増加いたしました。単価の下落により売上高は前年同期比横ばいにとどまりました。

この結果、当セグメントにおける売上高は38,526百万円（同13.3%増加）、セグメント利益は976百万円（同5.0%増加）となりました。

・非鉄原料事業

当セグメントの主要需要先である国内自動車生産は消費税増税の影響を受けたものの前年同期比では概ね横ばい、また鉄鋼生産も概ね堅調に推移いたしました。売上面では、主力のアルミ輸入合金地金と製錬用アルミスクラップ及び銅スクラップが堅調に推移したほか、金属珪素、鉛地金も売上が増加いたしました。

この結果、当セグメントにおける売上高は16,533百万円（同10.6%増加）、セグメント利益は134百万円（同95.9%増加）となりました。

・建設・産業資材事業

消費税増税後の反動により新設住宅着工が落ち込む一方、民間設備投資に回復の兆しはあるものの足元の需要は弱く、配管機材類の取扱いは全体として低調に推移いたしました。また、円安に伴うコスト上昇により、バルク貯槽や素形材の輸入取引も低迷いたしました。一方、海外におけるバルブ類の売上は増加いたしました。銅合金類の海外取引は急激な為替変動によって価格競争力を失い減少いたしました。

この結果、当セグメントにおける売上高は6,987百万円(同0.8%増加)、セグメント利益は97百万円(同12.2%減少)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 財政状態

a. 流動資産

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は69,296百万円であり、前連結会計年度末比2,959百万円の増加となりました。主な内訳は、たな卸資産の増加3,523百万円、受取手形及び売掛金の減少996百万円、現金及び預金の増加272百万円であります。

b. 固定資産

当第2四半期連結会計期間末における固定資産は18,663百万円であり、前連結会計年度末比664百万円の減少となりました。主な内訳は、減価償却・のれん償却等に伴う有形・無形固定資産の減少717百万円、及び社債償還を上回る投資有価証券の増加による投資その他資産の増加52百万円であります。

c. 流動負債

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は52,445百万円であり、前連結会計年度末比2,258百万円の増加となりました。主な内訳は支払手形及び買掛金の減少243百万円、短期借入金の増加2,804百万円及び1年以内返済予定長期借入金の減少79百万円であります。

d. 固定負債

当第2四半期連結会計期間末における固定負債は12,420百万円であり、前連結会計年度末比1,688百万円の減少となりました。主な内訳は流動負債への振替による長期借入金の減少1,213百万円、及び社債の減少300百万円であります。

e. 純資産

当第2四半期連結会計期間末における純資産は23,093百万円であり、前連結会計年度末比1,725百万円の増加となりました。主な内訳は新株予約権の行使に伴う資本金並びに資本準備金の増加がそれぞれ22百万円、利益剰余金の増加2,067百万円、上場株式の時価評価に伴うその他有価証券評価差額金の増加222百万円、及び為替換算調整勘定の減少622百万円であります。

② 経営成績

a. 売上高

売上高の主な増加要因は、半導体向け銅合金条、自動車部品向けアルミニウムスクラップ、半導体製造装置向け精密研削加工部品並びにめっき材料、金属珪素、及びタングステン、モリブデン等の取扱いです。一方、主な減少要因は、空調機器向け銅管、電池材料用途のニッケル粉末、及び輸出向け黄銅棒であります。レアアースにおいては、軽希土類の取扱いが電池、磁石、触媒用途での自動車向け需要に支えられ増加いたしました。単価下落により、売上高は前年同期比横ばいにとどまりました。重希土類については市況低迷と取引先の在庫調整が続き低迷いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は、前年同期比9.1%増加の97,000百万円となりました。

b. 売上総利益

円安の進行により仕入れコストが増加する一方、連結子会社における取引増加が寄与し当第2四半期連結累計期間における売上総利益は前年同期比5.6%増加の5,816百万円となりました。

c. 販売費及び一般管理費

貸倒引当金戻入と減価償却費の減少により、当第2四半期連結累計期間における販売費及び一般管理費は前年同期比6.1%減少の3,412百万円となりました。

d. 営業利益

上記の結果、当第2四半期連結累計期間における営業利益は前年同期比28.1%増加の2,404百万円となりました。

e. 営業外収益、営業外費用

ケイ・マック株式会社の負ののれん発生益を含む持分法による投資利益を846百万円計上したことにより、営業外収支（営業外収益－営業外費用）は703百万円の収入超となりました（前年同期は78百万円の費用超）

f. 経常利益

上記の結果、当第2四半期連結累計期間における経常利益は前年同期比72.8%増加の3,108百万円となりました。

g. 特別利益、特別損失

固定資産売却益、新株予約権戻入益等の特別利益を22百万円計上した一方、投資有価証券評価損、固定資産除却損等の特別損失を18百万円計上いたしました。

h. 四半期純利益

税金等調整前四半期純利益3,112百万円から法人税等788百万円、連結子会社5社における少数株主利益33百万円を差引き、当第2四半期連結累計期間における四半期純利益は前年同期比27.2%増加の2,290百万円となりました。

③キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は12,985百万円（前年同四半期連結累計期間は11,054百万円）となり、前連結会計年度に比べ220百万円増加いたしました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況と主な変動要因は次のとおりであります。

a. 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、1,086百万円の減少（前年同四半期は635百万円の減少）となりました。主な増加要因は税金等調整前四半期純利益3,112百万円、売上債権の減少額660百万円、のれん償却及び減価償却費656百万円であります。一方、主な減少要因はたな卸資産の増加額3,631百万円、法人税等の支払額918百万円、及び持分法による投資利益846百万円であります。

b. 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、554百万円の増加（前年同四半期は1,744百万円の減少）となりました。主な増加要因は社債の償還による収入900百万円であります。一方、主な減少要因は設備投資等に伴う有形固定資産取得による支出415百万円、及び投資有価証券の取得による支出38百万円であります。

c. 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、848百万円の増加（前年同四半期は2,087百万円の増加）となりました。主な増加要因は短期借入金の純増加額2,713百万円、新株予約権の行使に伴う新株発行による収入44百万円であります。一方、主な減少要因は長期借入金の純減少額1,260百万円、及び配当金の支払額223百万円であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年3月期の連結業績予想につきましては、第2四半期連結累計期間における業績を鑑みて、平成26年5月16日に開示した内容から売上高、営業利益、経常利益、当期純利益をそれぞれ修正しております。詳細につきましては本日開示いたしました「平成27年3月期第2四半期連結累計期間の業績予想との差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

・税金費用の計算

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,926	13,199
受取手形及び売掛金	35,668	34,672
商品及び製品	14,311	17,587
仕掛品	1,045	1,289
原材料及び貯蔵品	426	429
その他	2,422	2,437
貸倒引当金	△465	△320
流動資産合計	66,336	69,296
固定資産		
有形固定資産	6,365	6,232
無形固定資産		
のれん	2,736	2,485
その他	3,870	3,536
無形固定資産合計	6,607	6,022
投資その他の資産	6,355	6,408
固定資産合計	19,327	18,663
資産合計	85,664	87,959
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	28,138	27,895
短期借入金	14,961	17,765
1年内返済予定の長期借入金	3,169	3,090
1年内償還予定の社債	600	600
未払法人税等	834	830
賞与引当金	450	505
その他	2,032	1,757
流動負債合計	50,187	52,445
固定負債		
社債	1,200	900
長期借入金	9,982	8,769
役員退職慰労引当金	204	224
退職給付に係る負債	311	305
長期未払金	61	69
その他	2,348	2,152
固定負債合計	14,108	12,420
負債合計	64,296	64,866

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,835	2,857
資本剰余金	1,877	1,899
利益剰余金	12,952	15,020
自己株式	△0	△0
株主資本合計	17,664	19,777
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	304	526
繰延ヘッジ損益	26	23
為替換算調整勘定	2,837	2,214
その他の包括利益累計額合計	3,168	2,765
新株予約権	38	36
少数株主持分	495	514
純資産合計	21,368	23,093
負債純資産合計	85,664	87,959

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	88,939	97,000
売上原価	83,428	91,183
売上総利益	5,510	5,816
販売費及び一般管理費	3,632	3,412
営業利益	1,877	2,404
営業外収益		
受取利息	35	38
仕入割引	9	7
受取配当金	24	40
持分法による投資利益	91	846
不動産賃貸収入	27	40
その他	64	116
営業外収益合計	253	1,089
営業外費用		
支払利息	179	160
売上割引	5	6
為替差損	77	165
手形売却損	17	20
不動産賃貸原価	17	5
その他	34	27
営業外費用合計	332	386
経常利益	1,799	3,108
特別利益		
固定資産売却益	1	17
負ののれん発生益	839	—
新株予約権戻入益	3	2
助成金収入	3	3
特別利益合計	846	22
特別損失		
投資有価証券評価損	25	17
関係会社清算損	21	—
その他	4	1
特別損失合計	51	18
税金等調整前四半期純利益	2,594	3,112
法人税等	759	788
少数株主損益調整前四半期純利益	1,834	2,323
少数株主利益	34	33
四半期純利益	1,800	2,290

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,834	2,323
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	309	212
繰延ヘッジ損益	16	1
為替換算調整勘定	1,527	△474
持分法適用会社に対する持分相当額	274	△142
その他の包括利益合計	2,128	△402
四半期包括利益	3,963	1,921
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,919	1,886
少数株主に係る四半期包括利益	43	34

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,594	3,112
減価償却費	540	508
のれん償却額	141	147
負ののれん発生益	△839	-
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	30	△149
賞与引当金の増減額 (△は減少)	12	55
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	19	-
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	-	△6
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	20	20
受取利息及び受取配当金	△60	△79
支払利息	179	160
投資有価証券評価損益 (△は益)	25	17
持分法による投資損益 (△は益)	△91	△846
売上債権の増減額 (△は増加)	△3,284	660
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△1,115	△3,631
仕入債務の増減額 (△は減少)	1,419	△37
未収消費税等の増減額 (△は増加)	38	△310
未払法人税等 (外形標準課税) の増減額 (△は減少)	20	0
前渡金の増減額 (△は増加)	1	△51
未収入金の増減額 (△は増加)	86	136
未払金の増減額 (△は減少)	△68	△23
前受金の増減額 (△は減少)	169	△8
その他	△435	130
小計	△594	△193
利息及び配当金の受取額	126	184
利息の支払額	△173	△159
法人税等の支払額	△370	△918
法人税等の還付額	375	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	△635	△1,086
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△12	△70
定期預金の払戻による収入	162	10
有形固定資産の取得による支出	△273	△415
無形固定資産の取得による支出	△61	△6
投資有価証券の取得による支出	△108	△38
投資有価証券の償還による収入	-	900
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△720	-
営業譲受による支出	△200	-
貸付けによる支出	△1,000	-
貸付金の回収による収入	34	5
保険積立金の積立による支出	△6	△6
その他	442	176
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,744	554
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	951	2,713
長期借入れによる収入	2,769	650
長期借入金の返済による支出	△1,026	△1,910
社債の償還による支出	△300	△300
株式の発行による収入	1	44
配当金の支払額	△198	△223
少数株主への配当金の支払額	△16	△15
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△136	△150
その他	42	40

財務活動によるキャッシュ・フロー	2,087	848
現金及び現金同等物に係る換算差額	303	△96
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	11	220
現金及び現金同等物の期首残高	11,042	12,765
現金及び現金同等物の四半期末残高	11,054	12,985

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	軽金属・銅製品	電子・機能材	非鉄原料	建設・産業資材	
売上高					
外部顧客に対する売上高	34,194	33,412	14,601	6,730	88,939
セグメント間の内部売上高又は振替高	368	583	348	205	1,506
計	34,563	33,995	14,950	6,935	90,445
セグメント利益	758	929	68	111	1,868

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,868
セグメント間取引消去	△69
四半期連結損益計算書の経常利益	1,799

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
(重要な負ののれん発生益)

「軽金属・銅製品」セグメントにおいて、大羽精研株式会社の全株式を取得し新たに連結の範囲に含めております。当該事象による負ののれん発生益の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては785百万円であります。

「非鉄原料」セグメントにおいて、アルミリサイクル株式会社より大阪アルミセンター事業を譲受けております。当該事象による負ののれん発生益の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては53百万円であります。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	軽金属・銅製品	電子・機能材	非鉄原料	建設・産業資材	
売上高					
外部顧客に対する売上高	36,692	37,037	16,426	6,844	97,000
セグメント間の内部売上高又は振替高	431	1,489	106	143	2,171
計	37,123	38,526	16,533	6,987	99,171
セグメント利益	1,915	976	134	97	3,124

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より一部の組織についてセグメント区分を変更しております。

管理区分を見直したことにより、ALCONIX (THAILAND) LTD. 及びALCONIX LOGISTICS (THAILAND) LTD. は「軽金属・銅製品」から「建設・産業資材」に、ALCONIX HONGKONG CORP., LTD. は「建設・産業資材」から「電子・機能材」に変更しております。また、名古屋支店営業部原料チームは名古屋支店営業部名古屋営業課への統合により「非鉄原料」から「軽金属・銅製品」に変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	3,124
セグメント間取引消去	△15
四半期連結損益計算書の経常利益	3,108